

## 2 災害対応体制の確認、整備～災害対策本部の立ち上げ

教職員研修や避難訓練を通して本校の地震津波対応に関する課題を挙げていき、それらの課題を分析して「地震津波避難マニュアル」を作成した。作成したマニュアルを検証する過程で、災害対策本部に課題があることが明確になった。

以下に、教職員の防災に対する意識の向上に向けた教職員研修、本部の課題解決・改善を図るために取り組んだ事例を紹介する。

### (1) 教職員研修～教職員の防災に対する意識の向上を目指して～

#### ① 課題の把握

R S K式防災カルテ問診表では、災害発生から72時間を想定して、時間経過に伴う行動や対応また手段や必要な機材・物品等を挙げていき、自らが被災した感覚で問診表に記入していった。本校の児童生徒の課題とともに、教職員自身の家庭での課題も明らかになった。



【RSK式防災問診表】



※RSK式防災問診表とは、防災訓練や学習をする際、一人一人の防災

※詳しくは「Ⅲ資料2(1)」を参照 に対する理解度を知り、組織としての取組を進めるための資料である。

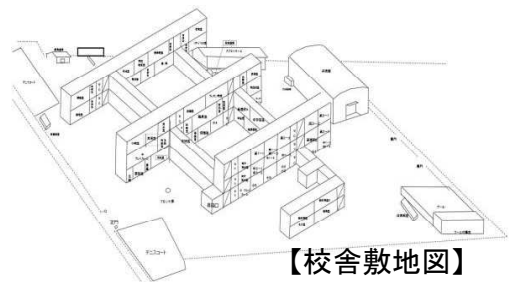
#### ② 人を乗せ階段を降ろす器具を体験



校舎内にスロープがなく、災害時には教職員によって車椅子の児童生徒を昇降することになる。大人1人の力で降ろすことができる器具を使用し、実際に降ろしたり、児童生徒の気持ちになって降ろされてみたりした。扱い方や便利さを知るとともに、児童生徒へ配慮する点等も実践を通して研修した。

#### ③ 避難経路を図上で確認

災害を想定して、車椅子の児童生徒を降ろす階段やどの廊下を経路として使用するかを小グループで検討した。



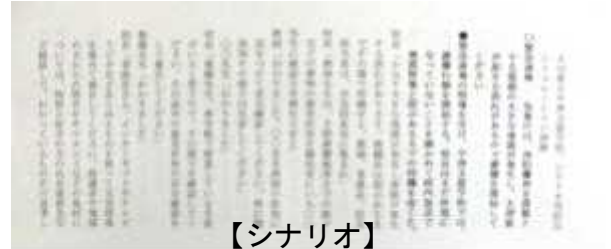
#### ④ 起震車体験



自分の身の守り方と自分で身を守ることが難しい児童生徒をどのように守るのかを体験を通して研修した。車椅子の揺れ方や落下物の危険性を感じることができた。

⑤ シナリオ型（提示型）防災訓練

校長を中心とした災害時の責任者が指示や判断を実際に行い、教職員と児童生徒の安全と被害の軽減に向けたコミュニケーション機能の構築と実証を行った。シナリオがあるにもかかわらず、判断、情報収集、情報の共有、災害備蓄、保護者対応、各関係機関対応等を含む課題が明らかになった。



【シナリオ】

⑥ 「防災における危機管理」～ワールドカフェ～

『保護者連絡・引き渡し』『必要備蓄・保管場所』『登下校』『避難所運営』『地域との連携』をテーマに実施した。

あらかじめファシリテーターと記録者を決めておき、テーマに沿って意見を出した。7分毎に席替えを行うことで、同じテーマでもいろいろな角度から思いや意見が出てきて、本校の課題がさらに明らかになり、改善策が見えてきた。



⑦ 先進地実践校視察報告

岩手県の特別支援学校2校で見聞きした震災時の避難・避難後の様子、防災マニュアル、保護者連絡・引き渡し、備蓄、校内の環境整備等の様子を報告した。全教職員と共通理解を図るとともに災害の恐ろしさを共感した。



【気仙光陵支援学校】

【釜石祥雲支援学校】

⑧ 課題の把握



これまで実施してきた教職員研修・避難訓練を通して挙げた課題を、災害発生時から時間の経過でまとめ、教職員で共通理解を図った。



### ⑬ 分掌等との連携

「防災教育・防災管理を充実させるために、分掌等の連携を図り、学校全体で取り組み、全教職員で共通理解し、マニュアル化していく」ことを目的に実施した。

『保護者連絡・引き渡し』『医療的ケア等』『必要備蓄・保管場所』『避難所運営』『登下校』『情報ツール・一斉メール』『施設設備』について分掌で検討し、教職員で共通理解を図った。

### ⑭ 地震津波避難訓練を実施して～映像分析～

児童生徒や自分の身を守る様子、本部から指示が出て避難を開始する様子等、実際の訓練時の映像を見ながら、それぞれの役割がどのように機能しているのかを振り返り、反省を行った。映像を分析することで、成果と課題が明らかになった。また、具体的な改善・解決策を共通理解することができた。



【訓練の様子を録画】

### (2) 災害対策本部 ～災害対策本部の課題解決・改善を目指して～

教職員研修によって明らかにされた課題を分析した結果、災害対策本部における次の課題が挙がってきた。これらの課題を改善・解決するため、グッズを準備することやマニュアル化すること等を、避難訓練を通して検証を行った。

#### 《災害対策本部における課題》

- ・本部の情報インプットに対する時間短縮
- ・異常がない報告に時間がかかりすぎる
- ・校長・教頭に報告が集中
- ・情報のトリアージの検討



【本部の様子】

※トリアージとは、「選別」「優先割当」の意。大災害によって多数の負傷者が発生した際に、現場で傷の程度を判定し、治療や搬送の優先順位を決めること。また、その役目。

### ① 本部ボックス

災害対策本部の立ち上げに必要なグッズを一つの箱にまとめて入れた。通常時は、職員室の教頭席の下に置き、災害時にすぐに持ち運べるようにしている。一人で運べる重さ、大きさ、形にした。以下に、本部ボックスの中に入っているものを示す。



## ア 本部旗

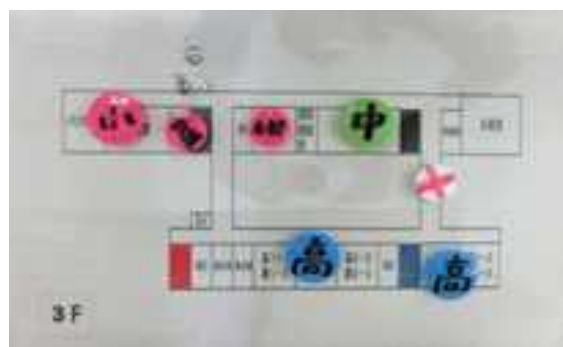
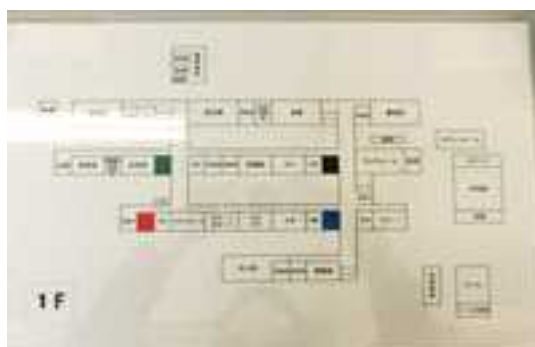
本部を示すもの。マグネットと紐<sup>ひも</sup>をつけて、使用しやすいようにしている。



## イ 校舎内の図面

視覚的に理解しやすいようにすることで、大勢で確認することができ、情報共有の時間短縮を図った。

図面をクリアファイルに入れることで、水性ペンでの書き込みが繰り返し行える。また、裏面にマグネットをつけることで防火戸やホワイトボードに貼り付けて使用することができる。



マグネットを使用することで示しやすく、変更の場合の修正がしやすい。各学部、本部、救護の所在地・避難場所を示す。×は、危険箇所等を示す。



## ウ 業務分担カード



本部の役割を確実に going いくために、業務内容や確認事項をカードにしている。誰がするのも明記した。これらの内容や項目毎に、必要なことをメモ等で視覚的に示すことにより情報を共有しやすい。ラミネートをすることで繰り返し使用できる。また、裏面にマグネットをつけることで防火戸やホワイトボードに貼り付けて使用できる。

## エ 在校時の全体マニュアル

対応フローに沿った全体マニュアル（全教職員の役割に沿った動きを把握）をクリアファイルに入れている。指示・確認がしやすく、変更時には、差し替えがしやすい。



## オ 地震津波避難マニュアル

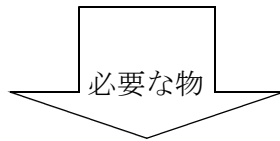
対応フロー以外に、必要な内容や事項をまとめたものをクリアブックに入れている。変更時には、差し替えがしやすく、非常時にすぐにマニュアルが使用できるようにしている。



※詳しくは「Ⅲ資料2(3)」を参照

カ 学部主事の必要物品

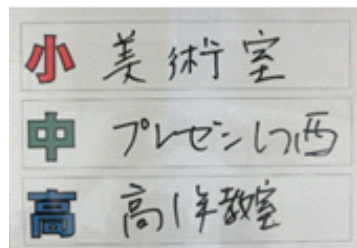
避難誘導時に、学部主事が示しやすく、教職員・児童生徒にわかりやすくするために、必要な物をバインダーに挟んで、すぐに持ち出せるようにセットしている。



キ 避難場所表示

避難場所に貼り、避難していることを示せるようにしている。

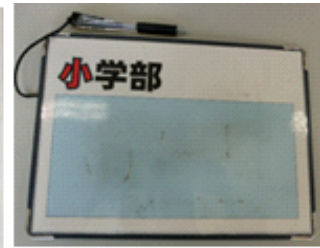
裏面にマグネットをつけることで、教室の扉に貼り付けて使用できる。



ク 避難誘導表示

学部や各学部の避難場所を書き込んで示すことで、見てわかりやすい避難誘導にしている。

ラミネートをすることで水性ペンでの書き込みが繰り返しできる。



< 事務局/管理職等 >

1	時刻( )	確認者( )				
2	時刻( )	確認者( )				
3	時刻( )	確認者( )				
4	時刻( )	確認者( )				
5	時刻( )	確認者( )				

職員名簿

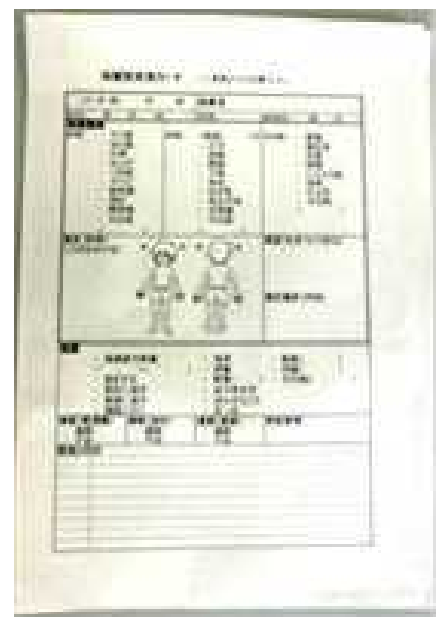
氏名	所属	1	2	3	4	5
1	山田 太郎					
2	田中 花子					
3	佐藤 一郎					
4	鈴木 健二					
5	高橋 美咲					
6	中村 誠也					
7	松本 直子					
8	渡辺 隆夫					

日付: 年 月 日

ク 安否確認等の名簿

安否確認の際、チェックしたものを本部に提出する。異常あるもののみ、記録と口頭で報告する。情報のインプット・アウトプットにおける時間短縮を図った。

非常時に使用できるように学部主事が日常的に使用している。



※詳しくは「Ⅲ資料2(4)」を参照

ケ 問診票

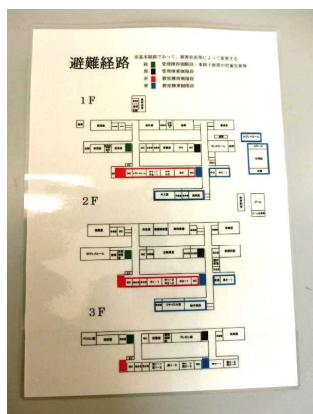
ケガや病状がすぐにわかり、医療機関と連携しやすいように、記録したものを本部に提出する。

非常時に使用できるように教室等におき、日常的に使用している。

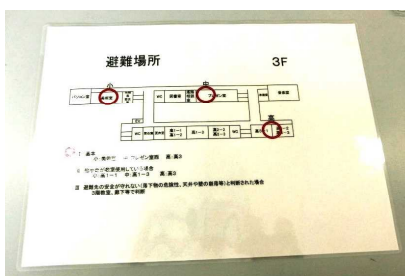
※詳しくは「Ⅲ資料2(5)」を参照

コ 持ち出し物品

使用頻度が高いもの、持ち出しの可能性が高い物はラミネートをすることで使用しやすくしている。



a 避難経路



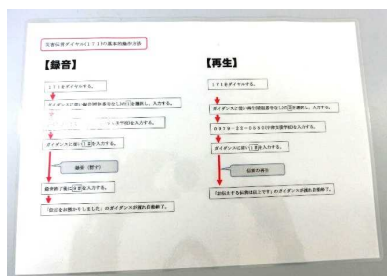
b 避難場所

I 案、II 案、III 案を記載している。



c 連絡先一覧表

連絡が必要な関係機関、近隣小中学校の連絡先を記載している。



d 伝言ダイヤル 171  
操作方法



e 公衆電話マップ  
学校から半径1.5～2km範囲の公衆電話の位置を記載している。



f 衛星電話マップ  
中津市内の衛星電話の位置を記載している。

サ 防護安全ボックス



災害後に校内の安全点検をする際に必要な物品をボックスに入れ、携帯しやすいように準備している。危険箇所に提示するカードは、本校の児童生徒が理解しやすくしたオリジナルカードである。また、様々な状況に対応できるように必要となる文具等を入れている。

シ 文房具等

様々な状況に対応できるように必要となる文具等を準備している。



② 権限委譲

指示を出す人、報告を受ける人が校長・教頭に集中してしまう。情報のインプット・アウトプットに多大な時間を費やすことでは、児童生徒の安全で安心な避難にはつながらないため、『権限委譲』というかたちをマニュアル化した。

担当業務

災害対策本部

氏名	学部・分掌	主な担当業務	準備物
本部長	校長	対策本部の総括 対策本部設置 意思決定 《掌握》 災害情報 児童生徒状況 避難先 避難経路 救急搬送 火災状況 安否確認 近隣学校対応 保護者への対応	本部旗
学部主事	小学部 中学部 高等部 学部主事	本部連絡調整、学部掌握 避難経路の安全確認 避難経路決定・報告 避難指示 避難誘導 学部安否確認把握・報告 児童生徒把握 今後の動向・対応を学部職員に指示 保護者への対応指示 欠席・訪問児童生徒への対応	学校敷地図 児童生徒名簿 職員名簿 保護者連絡先一覧表

担当業務の中で、本部長＝校長の業務のどの内容が権限委譲であるかを明確にした。また、誰がどの内容を権限委譲されているのかも明確にした。

権限委譲された担当がない場合も、本部が機能するために「～いない場合は」と、代行を明確にした。

網掛けの部分は、**権限委譲**  
 主担当・主任・主事がない場合は、**副担当・副主任・副主任・学年主任に権限委譲**

※詳しくは「Ⅲ資料2(3)」を参照

**《災害対策本部における改善策》**

- ・本部ボックスを準備
- ・避難場所や経路等の複数案をマニュアル化
- ・本部の役割分担を明確化（権限委譲）
- ・施設内の環境整備
- ・指示伝達の方法を「口頭（聴覚）＋文字・文章（視覚）」
- ・報告の方法を「口頭（聴覚）＋文字・文章（視覚）」（異常あるもののみ報告）